

平成 29 (2017) 年度の出来事から

公文書室長 広瀬茂久

今年度も「記録」が世間の耳目を集めました。学校法人「森友学園」の国有地売却をめぐる文書の存否が1年以上にわたってくすぶり続け、突然炎上。財務省の決裁文書の改竄が明るみに出ました。改竄前後で比較すると多くのことが読み取れます；私は、原本はよくできた公文書で、さすが財務省の官僚と感心するとともに、現代では、一度作ったものは何らかの形で残るものだとの感を強くしました。改竄は、日本人は法より人間関係や仲間内のモラルで動く傾向が強いことを物語っています。日本のマスコミが関係者に気を使って、「書き換え」と弱く表現しているのに対し、外国の特派員は Finance ministry admits falsifying papers to excise mention of PM and wife (Financial Times, 2018/03/16) と言い切っていました。◆さて今号では、この1年を振り返って印象深かった4つの出来事を選んで報告します：1) 廊下に刻まれた歴史、2) 幹に咲く桜、3) 浅草文庫の流れを汲んで2足のわらじを履きこなす、4) ワグネル没後125年記念講演会。

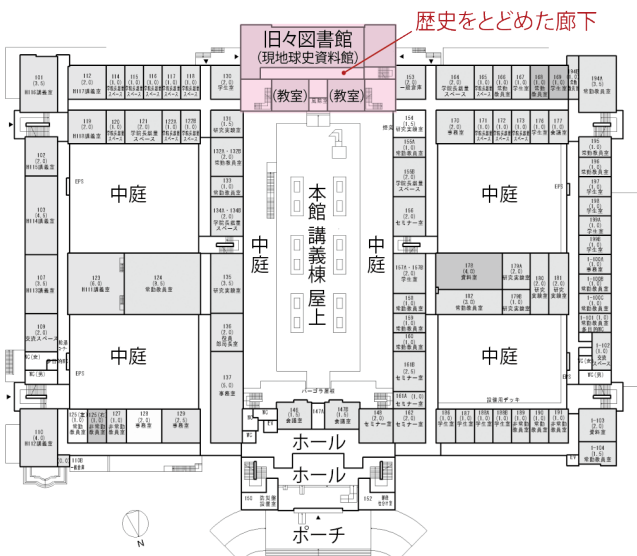


② 旧々図書館の廊下。図1の赤ポイント

図書館も今のように別棟ではなく本館内にありました。この旧々図書館（1-2階吹き抜け、3-4階吹き抜けの高い天井構造）の跡地を改修して、現在は1階部分が講義室と地球史資料館、3階部分が数学科図書室及び資史料館・公文書室として利用されています。講義室前に残された旧々図書館の廊下②が歴史を物語っていますので、公文書室に来訪の折には、是非1階の廊下もご覧ください。私も学生時代は同じひび割れを見ていたはずですが、将来のことばかり考えていたせいでしょうか、ひびが意味することについては深く考えませんでした。老朽化によるひびではなく、多くの学生が図書館に足を運び勉強にいそしんだ証なのです。私も、ほんのわずかですが、ひびを増した一人かと思うと感慨深いものがあります。この廊下が長く保存されることを願うとともに、重要な文書類を後世に伝えるという公文書室の役割の大切さを再認識した次第です。

1. 廊下は語る

公文書室が入っている建物（大学の本館①）は昭和9年（1934）竣工で歴史を感じさせます。当時の本学は大学に昇格したばかりで、まだ規模が小さく、学生数も1学年約150名、8学科でしたので、本館と附設の研究所・実験工場ですべてまかなえるように設計されていました。図



① 本館（登録有形文化財、3F建、1部4F）の1F平面図。1Fの床面積は約1000m²

2. さくらさく | 胴吹き桜

本館前の桜並木は桜の名所として有名で、毎年、近隣の人たちが大勢花見に訪れますが、植えられたのは昭和25年（1950）ですので、樹齢約70歳です。花は枝に付くものという先入観から見落としがちですが、桜は幹にも花をつけます。この現象は「胴吹き」と呼ばれ、胴吹き桜③が見られるのは樹勢が衰えた老木の特徴のようです。幹についた蕾の方が枝のものより早く開花します。今年は3月16日（金）でした。「サクラサク」は合格電報でおなじみですが、インターネットの普及とともに姿を消し、今では大学のWebページで合格者の受験番号が発表されるようになってきました。合格を知らせる電文には、「イナホミノル」（稲穂実る、早大）、「アカシアノハナガサク」（アカシアの花が咲く、小樽商科大）、「アオバモユル」（青葉もゆる、東北大）、「オチャカオル」（お茶かおる、お茶大）、「クジラ



③ 本館前の桜ソメイヨシノ; 右奥は西9号館と70周年記念講堂;
撮影: 酒井正好, 2018.3.16。

ガツレタ」(鯨が釣れた, 高知大) など工夫を凝らしたものが多く、一覧表にまとめる価値があるのではないのでしょうか。

3. 展示会:『浅草文庫』～蔵前時代～

本学には設立間もない頃から芸芸部があり、その流れをくむ卒業生の中には吉本隆明、奥野健男、秋山豊(1944～2015, 資料館とっておきメモ帳No.6参照)など芸芸評論家として活躍した人がいます。2016年5月に奥野さんの娘さんから「実家を建て替えるのを機に、保存してあった父の書斎を整理したいので、母校で役立ちそうなものがあれば寄贈したい」との連絡を受け、翌6月にご寄贈くださったのが製本された4冊の『浅草文庫』④を含む資料でした。浅草文庫といえば我が国最初の公立図書館「書籍館」(1872～1874)の蔵書を引き継いだ2代目の公立図書館「浅草文庫」(1875～1881)と同じ名前でも混同しやすいのですが、それは偶然の一致ではありません。

本学の前身である東京職工学校は、明治14年(1881)に設立され、浅草蔵前の地に居を定めましたが、42年後の大正12年(1923)の関東大震災で焼け出され、現在の大岡山に移転しました。蔵前には名前の由来となった江戸幕府の米蔵があり、隅田川の水運を利用して「食」を支える重要な流通拠点の一つでした。上述の浅草文庫には徳川幕府関連の書籍類が収蔵されていましたが、その文庫が1881年に上野公園に新築された博物館構内に移転し、建物が東京職工学校に引き継がれることになりました。「食」から「書庫」を経て「職」へと変遷したことになります。先輩たちは、浅草文庫の地に、科学技術のみでなく芸芸の花も咲かせたい、少なくとも芸芸の香りも漂う魅力的な思索の場にしたいという思いを込めて芸芸部の機関誌に『浅草文庫』と名付けたのです。

『浅草文庫』は、明治20年(1887)に東京職工学校 校友会 芸芸部によって創刊され、その後『蔵前文学』、『工大文藝』、『大岡山文学』と誌名を変えながら長きに渡って刊行された同人誌です(1979年4月発行の『大岡山文学』復刊第2号・通巻第95号まで確認されています)。制作者・寄稿者としては、濱田庄司(1894～1978, 資料館とっておきメモ帳No.5参照)、吉本隆明



④ 展示会のポスター(左)と奥野家から寄贈された「浅草文庫」,「蔵前文学」,「工大文藝」,「大岡山文学」。

(1924～2012, 資料館とっておきメモ帳No.6参照)、奥野健男(1926～1997, 資料館とっておきメモ帳No.7, p.11参照)ほか、後に芸術家・作家・文芸評論家として活躍した卒業生達が名を連ねています。

『浅草文庫』を所蔵していた奥野さん⑤の略歴と業績は、本学の130年史(350頁)に記されています。本学の化学コース在学中の昭和27年(1952)に「太宰治論」を発表して脚光を浴び、卒業後は東芝の技術者としてプリント配線の純国産化に成功し(1959年に大河内記念技術賞受賞, ⑤の右)、トランジスタラジオなどの生産に道を開いています。この奥野さんらの発明は伊藤整の小説『氾濫』(1957)のモデルにもなりました。奥野さんは、技術者及び芸芸評論家として2足の草鞋を履きこなし、それぞれの分野で一流の仕事をした数少ない一人でしょう。『浅草文庫』を受け取りに奥野家に伺った時に、大先輩の奥野さんの書斎(最高裁判事だった父の代からのもの)を見せて貰えたのは私にとっては幸せでした。奥野さんは恵比寿生まれで生涯同じ場所に住み続けた関係もあり、渋谷区立松濤美術館に奥野さんのコーナーが設けられ書斎が再現されています。

今回の展示(2017年5月19日～6月9日)では、蔵前の地で“ものづくり”を学んだ学生たちが大切にしていた文化の香りを感じ取って貰えたのではないかと思います。現在、大学が教育改革を通してリベラルアーツ教育に力を入れていますので、『浅草文庫』の伝統は、桜の樹勢とは異なり、時を経ても失われることはないでしょう。(p.3右下へ続く)



⑤ 二足の草鞋を履きこなし奥野健男(左)と大河内記念技術賞の楯(銅箔表面を加工し樹脂版に接着可とすることにより、エッチングによるプリント配線に成功した; 楯の中央はトランジスタラジオに使われたプリント配線の例)。

平成 29 年度（2017）に受け入れた特定歴史公文書のリスト

法人文書ファイル名	作成又は取得者
昭和 61 年度規則制定改廃 1/2	庶務部庶務課企画調査掛
昭和 61 年度規則制定改廃 2/2	庶務部庶務課企画調査掛
平成 18 年度学校基本調査	総務部評価・広報課広報・社会連携係
平成 21 年度～平成 23 年度創立 130 周年記念事業（記念式典）	130 年事業事務局 事業運営グループ
平成 19 年度収入・支出概算要求に関する文書	東京工業大学財務部主計課予算係
清華大学との合同プログラム 平成 18 年度	学務部留学生課企画交流係
赴日予備教育 2006 年度	研究協力部国際事業課国際事業第 2 係

法人文書ファイル名	作成又は取得者
平成 18 年度 中国赴日本国留学生予備教育 -1	研究協力部国際事業課国際事業第 2 係
平成 18 年度 中国赴日本国留学生予備教育 -2	研究協力部国際事業課国際事業第 2 係
昭和 61 年度国立学校施設実態調査報告書	施設部企画課企画掛
和田小六ノート 1920.10 Aerodynamics*	[和田小六]*
和田小六ノート II	[和田小六]
和田小六ノート III	[和田小六]
入試問題 大正 13 年～昭和 25 年	[東京工業大学]
入試問題 昭和 24～32 年	[東京工業大学]

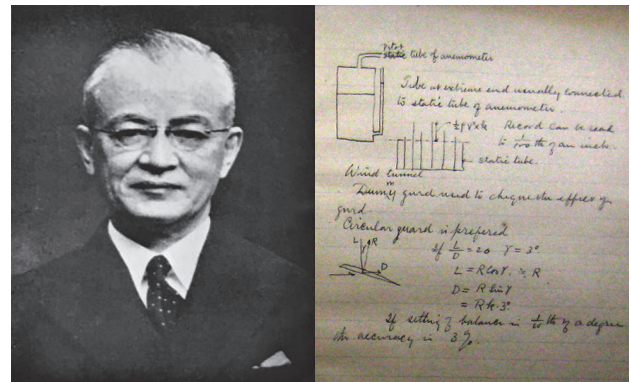
*Aerodynamics: 航空力学 **カッコ内は推測

新規収蔵の特定歴史公文書等の解題

上表のように 15 件の法人文書を「特定歴史公文書等」として公文書室に収蔵しました。その内、10 件は比較的新しく、残り 5 件は昭和 32（1957）年以前のもので、比較的新しいものには、海外オフィス関連の「清華大学との合同プログラム」が含まれています。現在、本学には以下の 4 つの海外オフィスがあり、学術交流と国際連携の推進拠点となっています：

本学の海外オフィスの概要	
タイオフィス ◆平成 14（2002）年 9 月開設	バンコク タイ王国サイエンスパーク内
	<ul style="list-style-type: none"> インターネット遠隔講義 学生 / 研究者交流 連携大学院 TAIST 事業の支援
フィリピンオフィス ◆平成 17（2005）年 9 月	マニラ デ・ラ・サール大学マニラ校内
	<ul style="list-style-type: none"> 相互学生交流 ワークショップ開催 インターネット双方向授業 帰国留学生を含む人脈形成 本学の広報活動
中国オフィス（東工大・清華大協力事務所）◆平成 18（'06）年 10 月	北京 清華大学校内（本部は本学の国際部内）
	<ul style="list-style-type: none"> 協定大学との学生 / 研究交流支援 本学と清華大の「大学院合同プログラム」の支援
エジプト E-JUST オフィス ◆平成 26（2014）年 4 月	東京工業大学大岡山キャンパス内
	<ul style="list-style-type: none"> エジプト日本科学技術大学（E-JUST）の開設とその後の支援 エジプトとの学術交流 / 学生交流の活性化 アラブ / アフリカ地区での広報活動

古いものでは、和田小六ノートが気になる資料かと思えます。和田小六(1890～1952)⑥は東大で航空工学を専攻し、同大学の航空研究所長を務めた後に、昭和 19（1944）年末から胃がんで亡くなるまでの 7 年余りを本学の学長として、戦後の新しい教育体制の構築に尽力しました。1947 年大学基準協会会長、翌年大学設置審議会会長に選ばれ、全国の大学改革や新制大学設置・運営にも深く関わりました（資料館とっておきメモ帳 No.7, p.5 参照）。



⑥ 和田小六（M23～S27）とノート。肖像写真の出典：佐々木重雄 編「和田小六博士追憶のために」、東京工業大学内財団法人工業振興会、1953 年。

※(p.2からの続き)

4. ワグネル没後 125 年記念講演会

蔵前工業会の泉妻秀一氏の仲介で、OAG・ドイツ東洋文化研究協会「シーボルト・ゼミナール」の大胡真人コーディネーターを紹介いただき、共催の形で、標記の講演会を開催しました（講師は道家達将特命教授；詳細は「東工大クロニクル」No.521, p.35）。G. ワグネルは本学の創立者の一人で（資料館とっておきメモ帳 No.9, p.7）、日本で生涯を閉じています。彼の人生はシーボルト家と深く関係していたようで、そのことを示す文書類が発見されることを期待しましょう。

公文書室 業務日誌（抄）

日時			業務内容
年	月	日	
平成 29 (2017)	5	19	～6月9日◆常設企画展示『浅草文庫』～蔵前時代～
	6	8	～9日◆全国公文書館長会議出席
		10	アート・ドキュメンテーション学会（於：東工大）で講演「公文書室設立の経緯と歴史的資料の保存・情報化・解題」
		13	～8月2日◆各部局と公文書の移管について協議及び担当者への研修
		17	金沢工業大学教員来訪（資料調査）
	7	6	主計課簿書庫保存資料の確認
	9	20	第4回関東地区国立大学文書館情報交換会参加（於：学習院大学）
		26	とっておきメモ帳 No.11「『宝島』のステューブソンに『吉田松陰伝』を書かせたのは誰か」発行
		27	～29日◆博物館事務室一部移転（百年記念館の空調設備更新工事のため）
	10	16	～11月17日◆国立公文書館主催アーカイブス研修 III 受講
11	8	ゴットフリート・ワグネル没後 125 年記念講演会開催（AOG と共催，於：OAG・ドイツ文化会館）	
平成 30 (2018)	1	29	学習院大学大学院生来訪（研究資料の収集・整理法）
	2	15	平成 29 年度第 1 回 博物館 資史料等審査部会開催
		21	公文書室書庫の加湿ユニット点検整備

寄贈資料一覧 & 資史料館からのお知らせ

◆ 下記資料を寄贈いただきました（2017 年 4 月から 2018 年 3 月受領分）。

寄贈者	資料名
吉岡道子	東京工業大学九十年史 他
水落範子	中澤三知彦氏 蔵前旅行記
ロボット技術研究会	NHK 学生ロボコン 2017 結果報告 他
蔵前修工会	蔵前修工会活動アルバム（専攻科）昭和 26 年 他
佐藤年緒	社会工学科 設立 20 周年記念誌（1987 年 3 月発行）
五味宣子	[古賀逸策] 日記 昭和 30 年 7 月～31 年 3 月 他
秋山明美	東京工業大学教官総覧 1965 年版 他
赤松道子	梶 雅範 学内会議メモ

寄贈者	資料名
道迫真吾 (萩博物館)	萩市・下田市姉妹都市締結 30 周年記念特別展「『宝島』の作者ステューブソンがつづる吉田松陰伝」リーフレット (2005 年)
岸本喜久雄	Tokyo Tech Now '02 工系・部局版 イノベーション研究推進体概要集 2006 大学の世界展開力強化事業 H23-27 報告書 日英工学教育シンポジウム 2014 他
すずかけ台地区 事務部総務課	大学院重点化構想に関する検討懇談会中間報告書 他
環境エネルギー 協創教育院	環境エネルギー機構関係資料

◆ 公文書室入口（本館 3 階奥）にパンフレット棚を設置し、「発掘！東工大の研究と社会貢献」, 「資史料館 とっておきメモ帳」を配布しています。百年記念館 1 階と合わせてご利用下さい。

東京工業大学公文書室だより 第 3 号 2018 年 3 月 31 日発行

編集・発行 東京工業大学博物館資史料館部門公文書室

152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1, E3-12 TEL 03-5734-3347

E-mail centshiryou@jim.titech.ac.jp URL <http://www.cent.titech.ac.jp/indexArchives.html>